



本学の留学生別科には、毎年春と秋に協定校を中心として
様々な国からの留学生が入学してきます。
彼らの日本での学生生活をボランティアで支える
I-Clubのメンバーにお話をうかがいました。

留学生とのバーベキュー

「I-Club」(アイ・クラブ)とはどのようなグループですか？

「I-Club」は、生活や勉学の面で日本に不慣れた留学生が、少しでも早く日本の文化・社会に溶け込んでいるようサポート活動を行っている本学学生のボランティア・チャーターの団体です。

外国語学部・留学生別科開設と同時に設置された国際交流センターのもとに当時のセンタースタッフの呼びかけで誕生したのが始まりです。当時は「I-Club」という名称はなく、留学生チャーターのボランティア活動グループとして「International」(メイトシップ)という愛称を持っていました。

具体的な活動内容はどのようなものでしょうか？

年間活動は、4月の新入部員勧誘に始まり、春と秋には留学生の入学の時期に合わせて、オリエンテーションを兼ねた名古屋市内の案内ツアー・トリップを行っています。具体的には、名古屋市街、栄・大須周辺を1日使ったの故郷となっています。

この名古屋市内見学は、実際の生活に関連する銀行や生活用品が購入できる場所などを教えることのできる良い機会になっていると思います。

10月後半には、ハロウィンパーティーや大学祭、また留学生の帰国時期に合わせてフェアウェル(さよなら)パーティーというように、1年を通してイベントを行っています。

日常的には、授業の空き時間や授業後にセミナーハウスを訪ねて宿題や勉強の手伝い、また、日本語でお喋りすることも重要な役割のひとつになっています。休みの日に二階に買い物に行く人もいますし、時には日本料理を作ったりもしています。

各国から様々な文化を持った留学生が集まっていますが、留学生が日本の生活様式に戸惑うことも多いと思うのですが？

どうして靴を脱いで上がるんだとか座敷で奥の方に目上の人が座るのはなぜかといった質問をされると困りますね。

もちろん、こちらから一方的に留学生に日本文化を強要するのではなく、彼らとの日常的な交流を通して、同じ大学で学ぶ友人として日本文化の良いところも悪いところもまじめに吸収してもらえよう努力しています。

留学生と接する上で難しいと感じられるのはどのような点でしょうか？

やはり言葉のギャップが一番大きいですね。留学生は皆日本でたくさん友達を作りたいと思っているのですが、留学生同士ではどうしても母国語で話してしまいがちです。ですからセミナーハウスにもっと多くの日本

人を呼んで日本にホームステイに来たような環境を作っていくことができれば、留学生も言葉のギャップを取り払うことができるのではないかと考えています。

この活動を通して何か得られたものはありますか？

留学生との異文化間交流を通して日本人の私達が学ぶことは、私達が彼らに伝えられること以上に多く、この活動に参加することにより日本語も含めた白国の文化や社会についての知識不足を痛感させられると同時にそれらを学ぶことの大切さを教えられます。

日本の大学生について、留学生はどのように感じているようですか？

留学生は皆、それぞれ目的を持って日本へ勉強に来ています。日本の学生は「見栄」しそうに大学生活を送っているように見えますが、何のために大学に来ているのかが理解できないような学生や、大学で勉強に打ち込む姿があまり見られないの不思議に思うようです。他の国では、日本人は真面目で良く働くというイメージがあるせいか、そのような点にギャップを感じているのかもしれないですね。

今後の「I-Club」の活動方針を

「I-Club」は経済的にも精神的にもボランティア精神が求められるクラブだと思っています。また過去の活動やイベントについては国際交流センターの支援がありますが、サークルやクラブのように部費がないので、活動内容がある程度限られてきます。

留学生は一人でも多く日本人の友達が欲しいと思っているので、「I-Club」のメンバーと一緒にセミナーハウスを訪ねたり、留学生を励ます会その他のパーティーにより多くの学生が参加してもらうことができればうれしく思います。留学生の存在をより身近なものにしていくためには、まず私達「I-Club」の存在が学生にとって身近なものになるような努力もしていきたいかなと思います。



国際セミナーハウス

インタビューに

ご協力

いただいたのは…

I-Club代表 石黒 千亜紀さん(経済学部3年)
長谷川 理佐さん(外国語学部1年)でした。
また、取材ならびに記事作成にあたっては本学新聞会の全面的な協力をいただきました。